

コウノトリのヒナへの 足環装着作業記録

2024年5月23日(木)
小山市

ゼロカーボン・ネイチャーポジティブ推進課

作業の結果

< 2024年5月23日(木)実施 >

ヒナに網をかぶせた時刻（ヒナ捕獲）	10:04
ヒナを箱に収容した時刻	10:07
足環装着・検体採取が終了した時刻	11:00
ヒナを巣に戻した時刻（ヒナ解放）	11:09
親鳥が巣に戻った時刻	12:06

< 総括 >

- 孵化推定日（4月11日）から42日齢のヒナ3羽に
 個体識別のための足環装着及び検体採取を行いました。
- 親鳥の体重が5.0kg程度、足環装着時のヒナの体重は
 3.0kg～5.0kg程度であることを考えると、ヒナは、順調に成長中と言えます。
- 作業中のヒナは、終始おとなしい状態でした。
- 親鳥はヒナ解放から1時間程度で巣に戻りました。

リング	左 J0739	右 J0739	左 J0740	右 J0740	左 J0741	右 J0741
エルザ リング						
個体番号	J0739		J0740		J0741	
リング 番号	14D-01739		14D-01740		14D-01741	
体重	4.7Kg		3.0Kg		3.2Kg	
全長	84.0cm		80.5cm		80.5cm	

足環装着の意義と作業手順



<作業の意義>

- コウノトリの個体番号が書かれた足環を装着することにより、個体の識別が可能となり、個体の移動や生死、生態を詳しく調べることができる。
- 足環装着に併せて検体採取を行うことにより、ヒナの健康状態や性別が分かる。

<作業の手順>

1. 高所作業車を使い、巢台からヒナを降ろす
(親鳥は離れていく)。
2. ヒナの身体計測を行い、検体(羽毛や血液など)を採取するとともに、足環を装着する。
3. 高所作業車を使い、ヒナを巢台に戻す。
4. 作業班は巣塔から距離を保ち、親鳥が巣塔に戻ったことを確認して解散する。

ヒナを巣台で捕獲する



<ヒナ捕獲の瞬間>

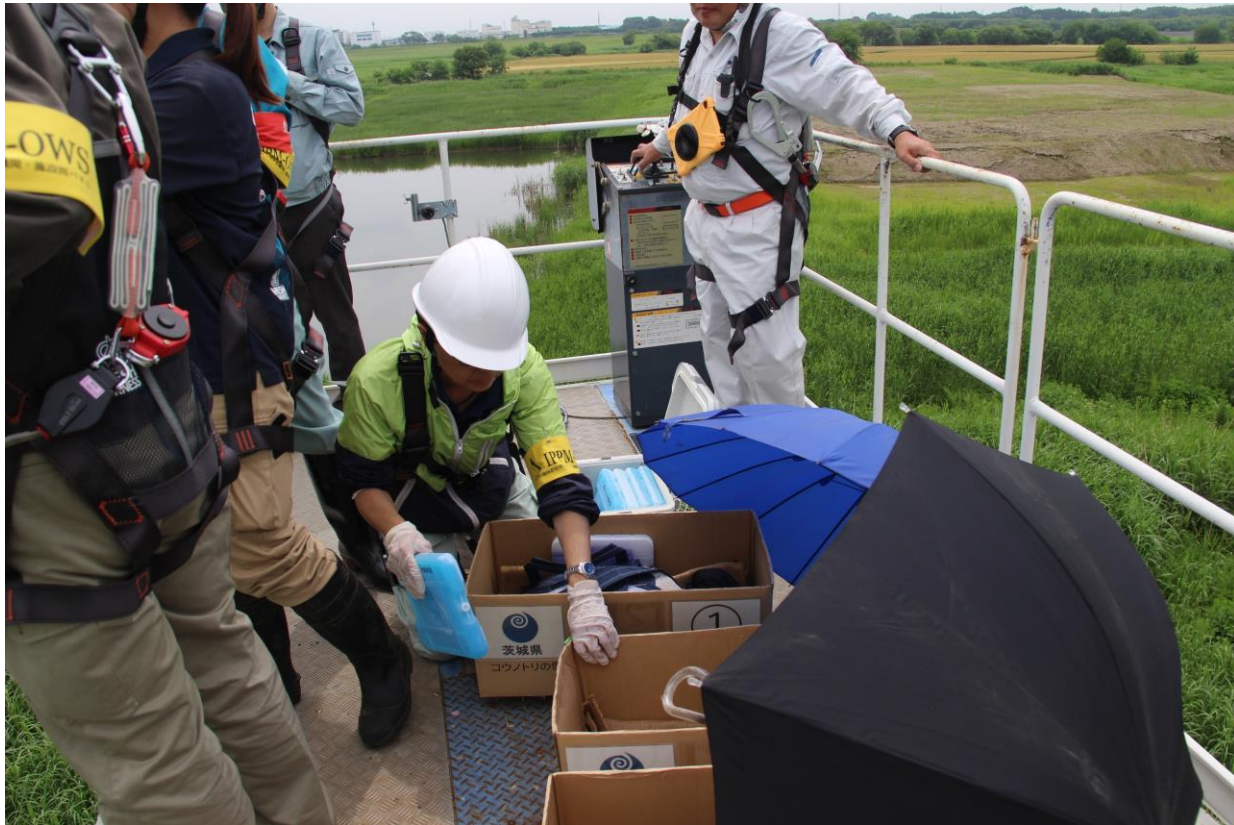
- ・高所作業車には、ヒナを捕獲する網や、ヒナを入れる捕獲箱（段ボール）などを積みます。
- ・ヒナは巣の中に伏せていますが、立ち上がって落下するおそれがあるため、ヒナの状態を絶えず遠方から確認します。



<ヒナ捕獲後の様子>

- ・ヒナが立ち上がってしまわないように、しゃがんだ状態から一気に、ヒナに網をかぶせます。
- ・ヒナを捕獲用の布に包みこんで動けないようにしてから、捕獲箱（段ボール）に移します。

ヒナを巣台から降ろす



<ヒナの運搬>

- ・ヒナには目隠しをするほか、体温があがらないよう捕獲箱に保冷材を入れておきます。
- ・気候に応じて、直射日光が当たらないように傘をかけます。



<ヒナを作業車からおろす>

- ・高所作業車が下降してから、1羽ずつヒナを降ろします。

身体計測・足環装着



＜身体計測の様子＞

- ・ヒナの体重を計測後、足の太さを測定します。
- ・足環装着部位（脛骨）の太さと踵関節を計測し、足環装着の基準を満たしているかを確認します。



＜足環装着の様子＞

- ・上下左右の配色を確認し、足環を装着します。
- ・足環には、3か所の穴があり、リベット（鉚）を打ち込んで固定します。

検体採取（羽毛・血液）



< 検体の採取① >

- ・さまざまな検査を行うため、羽毛や血液、クロアカスワブを採取します。



< 検体の採取② >

- ・血液採取の様子です。
- ・ヒナの性別判定の他、健康状態のチェックに活用します。

ヒナを巣台に戻す



＜巣台にヒナを戻す＞

- ・ヒナを捕獲箱から巣台に移動させます。
- ・ヒナには網をかぶせて、立ち上がらないようにします。



＜巣台に戻した後＞

- ・捕獲用の布を外したら、立ち上がらないよう網を被せます。

親鳥が巣に戻って、作業完了



＜ヒナを解放＞

- ・ 高所作業車の下降に合わせて、ヒナを解放します。

＜親鳥の帰巢確認＞

- ・ 高所作業車が下降した後は、親鳥が巣にもどることが確認できるまで離れた場所で観察します。
- ・ 昨年は、ヒナが立ち上がる様子が確認されるまでに30分程度でしたが、今年は1時間程度で親子4羽揃って立ち上がる様子が確認されました。

完全終了(3羽立ち上がり)時刻
12:06